

長春色 ～つる薔薇の魅力～

多彩な色の薔薇が咲き誇る季節を迎えました。我が家の庭でもいくつかの種類の薔薇を楽しんでいます。中でも壁の色とマッチした四季咲きのつる薔薇ロイヤルサンセット *Rosa cv. Loyal Sunset* が淡いオレンジ色を輝かせています。ロイヤルサンセットは、1960年にアメリカ合衆国で生まれた耐寒性落葉低木で、つる性ゆえにたくさん花を咲かせます。花びらはゆるやかにウェーブしており、トゲもなくダマスクというバラ科特有の淡い香りも楽しませてくれます。サンセットの名の通り、沈みゆく夕暮れ時のような色で、1週間程度経つと次第に色が抜けて薄くなっていきます。

このロイヤルサンセットと似た色に、日本の伝統色に「長春色」があります。こちらは中国原産の四季咲きの薔薇に由来する少しオレンジがかった薄紅色(カラー

コード #f08c7c または #e68683) のことです。「長春」とは、本来「常春」を意味したそうです。古くは、平安時代に日本に伝わった中国西部を原産地とする四季咲きの薔薇を、60日ごとに巡ってくる「庚申」になぞらえて「庚申薔薇」と呼び、その中国名「長春花」に因んで名付けられ、その花の色から「長春色」という名が生まれました。このくすみのある落ち着いた色合いは、大正時代に女性たちの間で流行したと言われています。

さらに、薔薇の歴史について調べてみると、『万葉集』や『常陸風土記』では、「荊」という字を当て「うらま」と呼び、「そうび」「しょうび」とも呼ばれていたそうです。これが先の中国渡来の「庚申薔薇」を指していたようです。世界には、約 250 種の原種を含め約 19,000



とこはる

種以上の薔薇があるそうですが、実は日本も薔薇の。品種改良に使用された原種のうちのノイバラ、テリハノイバラ、ハマナスの3種は日本原産です。現在流行っているつる薔薇も多くが、枝を長く伸ばす性質を利用したノイバラを起源としているそうです。つる薔薇は葉を多くつける性質から、爆発的に大きくなる力を備えているとされ、壁を飾る「生きた壁画」とも形容されます。

来週は今年度初めての中間考査です。入念な対策と準備をしてのぞんでください。ただ、学習だけではありません。聖ヶ丘で学ぶ生徒たちも、つる薔薇のように将来は大きな力をつけ、社会に貢献できる人材に育ててほしいと常々期待しています。

校長 石飛 一吉